



夢☆きらめいて

No.
14

加東市教育委員会/加東市人権・同和教育研究協議会 平成24年11月1日



「人権文化をすすめる市民運動」ポスター優秀作品
東条東小学校 3年 石塚 隆之助さん

目次

● 市同教の活動	2・3
● ヒロシマ原爆被爆体験	4
● 市民人権講座	5
● 身近な人権問題	6
● 企業人権学習	7
● 講演会	9・11
● 人権ポスター・標語	12・13
● 小学生の人権作文	14
● 人権トピックス	14

広島市で被爆し、意識を失い全身血まみれの重傷を負いながらも、九死に一生を得た河井克夫（新町在住）は、被爆してからというもの毎日生きていることに感謝します。その言葉は、とててから直後の状況の話は、私たちに戦争や原爆がどうも重みのあるものでした。時には耳をふさぎたくなるような生々しい原爆の悲惨なものか教えてくれます。

現在の世の中がどれだけ平和で豊かな暮らしができているか、あらためて感じずにはいられません。

「自分自身の体験を伝えることで、平和の尊さを感じしてもらわねば：」と自らの被爆体験を伝えてこられました。その夏、爆の体験を綴った小冊『その夏』を自費出版された河井克夫さんに、ごにき被さ子校を語っていました。本文（P4）掲載下さい。まだご覧ください。

「ありがたい。」
「私が覚めると「今日も命があった。生き残っている」と毎朝感じる。」

加東市人権・同和教育研究協議会の活動

「生きがいと幸せを築きあう人間尊重のまちに」

加東市人権・同和教育研究協議会は、『生きがいと幸せを築きあう人間尊重のまちに』をスローガンに、同和問題の解決を中心課題に据えて、社会の変化に伴い人々の暮らしに顕著に現れるさまざまな人権問題を明らかにしながら、組織体制を整え、教育・啓発活動、人権尊重に基づく学校・園（所）づくり、地域・まちづくりの取組を推進しています。

重点目標

1 地域社会における人権・同和教育の充実・活性化

○ 地区ごとに住民が主体的に学習会を開催し、同和問題を中心に据えて、あらゆる人権問題を解決するための実践活動を進める。

○ 市民人権講座や団体別研修に積極的に参加し、市民一人ひとりの人権意識の高揚を図る。

○ 人権意識に基づいたさまざまな交流活動を推進する。

本年度役員(敬称略)	
会長	上月 嘉和
副会長	高瀬 俊介
会計	松尾 美智子
監事	深田 壽嗣 大西 高久 神戸 泰三

2 学校・園（所）における人権・同和教育の内容の充実とその実践化を図る。

市内の全学校・園が手を携えて、人権・同和教育の内容の充実とその実践化を図ります。

（公開授業）

保・幼班、小学校班、中・高班に分かれて実施。

連合婦人会

10月19日（金）
10月25日（木）

【同和問題の解決に向けて】
講師 大東 太郎さん

行政職員

大東 太郎さん

② 内容

◆ 各地区住民学習会

① スローガン

『高めよう人権意識
広げよう交流の輪』

② 内容

・ビデオ学習や講演会等
による人権学習

主要教材ビデオ

・『桃香の自由帳』
による人権学習



◆ 理事会（団体代表19名）
年3回開催

③ 団体別研修推進部会
【高齢者】
7月20日（金）
『高齢者の同和教育』
【滝野地域】
10月17日（水）
『同和問題とわたし』

先覚者の顕彰碑も見学できた。
講師 郷土史家 丹波杜氏 田中 秀夫さん

◆ 専門部会
① 住民学習推進部会
・住民学習説明会
・リーダー研修会

（6月1日）
【学校教育部会】
〔研究テーマ〕
講師はいざれも
大東 太郎さん

（11月14日）
【同和問題とわたし】
講師はいざれも
大東 太郎さん

丹波杜氏 東田 昌さん



講師 丹波杜氏
東田 昌さん
田中 秀夫さん



東田さん

- ・ふれあい活動
- ・その他の伝統行事の伝承
- ・スポーツ交流
- ・交流盆踊り、お祭り等
- ③助成金
- ・基本助成
- 1万5千円と地区の戸数に応じた額
- (総額236万円)
- ・特別助成
- 創意工夫し意欲的な取組みに対する助成
- (総額59・3万円)
- *本年は31地区に対し、助成・交付しました。

関連事業

兵庫県人権教育研究大会

東播磨大会(小野大会)

7月28日(土)、小野市民会館・伝統産業会館・商工会館で開催され、市同教から63名が参加しました。

次の2つの分科会で学校、住民学習の取組を発表していました。

（分科会発表者）
第5分科会

- 『障がいのある人と人権』
滝野東小学校
出雲 賢士郎教諭
『学力向上、進路保障の手立てー基本的な生活習慣を高めてー』
新町地区社推委員会
「住民啓発」
大西 高久さん
『豊かな環境・住みよいまちづくり』
兵庫県人権教育研究大会
中央大会
9月29日・30日、赤穂郡上郡町で開催され、本市からのべ19名が参加しました。
東播磨大会に引き続き、29日、「啓発活動」の分科



田中校長と発表の出雲教諭



発表の大西さん

地区住民学習から

(報告書の中より)

沢部団地地区の取組

8月31日(金) 『桃香の自由帳』の視聴 後意見交換。(31名)

①私も母なので、日菜子のような考え方を持つてしまうかも…。
②自分の子どもも桃香のように育つてほしい。
③現代はいろんな怖い事件があるのも事実。何

いじめ問題が話題となつているとき、地区内の各世代が集い、解決への参考となる話が聞けて良かった。「自尊感情の低い子は基本的生活習慣や生活リズムが不規則で、ストレスやイラライラ感がたり、他人をいじめなくなる」との説は参加者に

- ④団地はお互い知らない人が多いなあと改めて考えさせられた。
当地区では、民生委員の方と協力して、今後も数回親子でのビデオ鑑賞会が開催される予定。

河高地区の取組

7月14日(土)
講師招聘による人権講演会を開催。

『自分が好き、人が好き
一夢を叶える子ども
を育てる』

講師 加島 ゆう子さん

いじめ問題が話題となつているとき、地区内の各世代が集い、解決への参考となる話が聞けて良かった。「自尊感情の低い子は基本的生活習慣や生活リズムが不規則で、ストレスやイラライラ感がたり、他人をいじめなくなる」との説は参加者に

会で新町地区の実践を大西さんが発表されました。
なお、30日は台風のため午前中で切り上げるというハプニング。

これまで近所の方とかかわればいいのか。
わればいいのか。

多くの示唆を与えた。
月1回の『ふれあいサロン』(5・6・7・8・9月)、『人権学習とクリーン作戦』(6月10日)、『秋津台いこいの花壇づくり』(6月30日)

秋津台地区の取組

啓発パネルの展示
月1回の『ふれあいサ

ロン』(5・6・7・8・9月)、『人権学習とクリーン作戦』(6月10日)、『秋津台いこいの花壇づくり』(6月30日)



サロンでの啓発パネル



行事開催の案内チラシ

シリーズ「わがまちに生きる」

その夏

～ヒロシマ原爆被爆体験～

河井 克夫さん



昭和20年8月6日、広島に投下された一発の原子爆弾によって、十四万人の市民が殺されました。倒壊した建物の下敷きになり、生きながらに火葬された人々、火に追われ水を求めて川に入り、溺死して水面が見えぬくらいに漂う無数の遺体。生き残った人々も、ほとんど衣服が焦げ落ちて裸同然、黒こげの皮膚が生焼けの腕や胸や背中の肉にからまり垂れ下がり、まさにこの世の生き地獄でした。

私は、広島高等師範学校に入学し、広島にいました。その日は学校の同室の一人が赤痢にかかり、隔離入院していたので、順番に看護当番をすることになり、病院に行きました。病室に着いて、部屋の隅に鉄かぶと救急袋を置き、熱があるので水を割つてやろうと思いました。冷蔵庫からおがくすにまみれた氷塊を取り出し、竹のざるに氷割りの錐と一緒に入れて右手に抱え、部屋から出ようとしました。ドアを開けながら後ろを振り向いて、「氷を割つてき

中が横にずばりと切れ、肉が裂け拭いを歯でかみ裂こうとしたら、歯がありません。手拭いを地面に広げ、足で踏みつけ無理やり裂き、片手でなんとか鉢巻をして目が開けられるようになりました。残りの半片で左手の甲をそつと巻き、上着のボタンを外して前合わせの間に差し込みました。改めて頭をなでまわしてみると全体がぬるぬるでどれだけの傷があるのかわかりません。右あごのえらは指がぶすりと入るぐらいに割れています。頭の上から上着からズボンがれて薄闇に包まれています。病院の姿はどこにもありません。砂漠のような廃墟がどこまでも広がっています。はるかに火の玉がいくつも燃えています。数秒後、火の玉はすうっと消えて真っ暗になりました。これはおかしいと思い、思わず右手で目をぬぐうと、べつとりと袖に血糊がつきました。頭を起きて上がりさせてくれました。逃げた途中に意識を失つて倒れていました。二人の団員は私の脇を起き上がらせてくれました。逃げる途中に意識を失つて倒れていたようです。二人の団員は私の脇の下に手を入れて支えてくれ、南へ行きました。やつとのことで、河口にあるアスファルト敷きの広場に着きました。三菱造船所の構内の庭だということです。そこに

河井さんは、8月7日、ふらつく足で焼け野原の市内をはうようにして学校に戻り、8月9日、同郷の友人2人とともに滝野町に帰つてこられました。

その後、白血球が4千以下に減少してしまったこともあったのですが、今ではほとんど回復し、元気にお暮らしです。「依頼があればどこへでも出かけて体験談をお話しします」と締めくくられました。

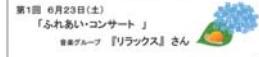
寝かされました。氣づくと数名の衛生兵が治療を始めました。そこで応急手当をしてくれました。あるのはヨーチンと縫合器具、包帯だけです。麻酔もありませんでしたが、右あごと左手の大きな裂傷を一針だけ縫つてくれました。この時初めて「痛い！」という感覚が蘇つきました。

その後、社宅の中に入つて横になりましたが、周りの人はみな裸ではだしの人々、皮膚がむけ焼けただれしていました。隣に寝ていた人は次々に息を引き取り、また次の裾まで血に染まつっていました。ふらふらと病棟が建つていたとおぼしき辺りへ歩き出しました。男の人が現れて、「一緒に逃げよう」と手を引いてくれました。

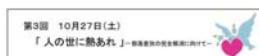
どれくらい時間が過ぎたのかわかりません。「しつかりしろ」という大声で目を覚ました。警防団員の二人が両脇を抱えて、私を起き上がらせてくれました。逃げる途中に意識を失つて倒れていたようです。二人の団員は私の脇の下に手を入れて支えてくれ、南へ行きました。やつとのことで、河口にあるアスファルト敷きの広場に着きました。三菱造船所の構内の庭だということです。そこに

第6期加東市民人権講座

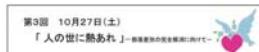
会場 東条文化会館(コスモックホール)
時間 午後1時30分~午後3時
(第2回のみ午後1時30分から)



第1回 6月23日(土)
「ふれあいコンサート」
音楽グループ『リラックス』さん



第2回 7月 7日(土) 13:30~
「学びでつながる集団づくり」
元 中村智穂 土田 光子さん
(大阪教育大学 教育政策実践センター 研究協力員)



第3回 10月27日(土)
「人の世に熱あれ」-加東市長の元気を届けたい-
西光寺副住職 清原 隆宣さん

■開催地: 加東市立東条文化会館(コスモックホール)
■開催日: 第1回 6月23日(土)午後1時30分~午後3時
第2回 7月 7日(土) 13:30~午後3時
第3回 10月27日(土) 13:30~午後3時
■料金: 第1回 600円(税込) 第2回 600円(税込)
第3回 600円(税込)
■お問い合わせ: 加東市立東条文化会館(072-702-2100)
FAX: 072-702-2101 E-mail: jokkyo-kyouiku-han.ktg.jp
■開場: 第1回 6月22日(金)午後6時半 第2回 7月 6日(金)午後6時半
第3回 10月26日(金)午後6時半



各地域の人権教育を推進していただくためのリーダー養成講座を開催しました。受講登録者は地区推薦の247名。

本年度から三ヵ年で市の幹部職員も受講する(34名)こととし、率先して人権(同和)問題について研鑽することとなりました。

各地域の人権教育を推進していただくためのリーダー養成講座を開催しました。受講登録者は地区推薦の247名。

第六期 加東市民人権講座

第一回 (6月 23日)
『ふれあいコンサート
ー仲間とともにー』

バンドグループ

「リラックス」さん

障がいを持つ人の詩に曲をつけて歌う6人のバンドメンバーで、作詞を埋め尽くした受講者の胸を揺さぶり感動の渦を巻き起こしていただきました。

第二回 (7月 7日)
『学びでつながる学習
集団づくり』

大阪教育大学 研究協力員

土田 光子さん
(「子どもの人権と健全育成を考える講演会」)

8ページに掲載

第三回 (10月 27日)
『人の世に熱あれ

ー部落差別の完全
解消に向けてー』

西光寺副住職
清原 隆宣さん

大正期、部落差別の解消を融和ではなく、自ら戦い取ることを高らかに宣言した「水平社宣言」。以来九十年を迎えています。

今一度その宣言の意味を考え、新たな一步を踏み出すために、発祥の地「西光寺」より清原さんをお招きし、熱き思いを語つていただきました。

講演会終了後、全回出席者に対して「修了証」の交付がなされました。

人権啓発パネルを作成!
貸し出しました!

あんな話、こんな話、講師の方々からは多くの教訓や心に響く「ことば」をいただきました。

題して「ハートフルメツセージ」一度ご覧になりませんか。

平成18年「加東市」が生まれて早や7年目です。

部落差別の解消を一大スローガンに掲げて、人権啓発・教育をすすめ、

市民の皆様が講演会や講座を受講されてきました。その講演会や講座の講師に記念色紙を書いていた

だいたものを退蔵するのではなく、多くの方にご覧いただきやすくすることを目的に展示パネルにしました。

パネルは15枚あります。平成18年以降の講演会や講座にお招きした方々の『ハートフルメツセージ』をご覧いただき、今一度



人権への熱き思いに触れてみてはいかがでしょうか。

地区の行事やふれあいサロンでの掲示用に一定期間に限り貸し出しました。

申し込みは人権教育課

まで。

(TEL 4813598)

身近なところにひそむ人権問題について考えてみましょう

ソーシャルサイト(SNS)※注 の落とし穴

スマートフォンを持つひとがずいぶん増えてきました。気軽にインターネットが出来たり、自分の思っていることを発信して誰かとつながったり、「ミニミニーションのとても便利なツールとなりました。

しかし、自分が何気なく書き込んだ言葉が誰かを傷つけたり、言葉が一人歩きして誤解を生んだり、プライバシーが侵害されたらどうしますか?

SNSがもたらす人権問題について、加東市ネット見守り隊

特別監視員 篠原嘉一さんに教えていただきました。

最近耳にする「いじめ問題」もインターネットが関係していることが増えてきた。いじめの動画を投稿した中高生も、軽い気持ちから投稿していた。「沢山の人に動画を見てもらいたい。」「すごい!と言われたい。」そんな思いで仲間が集まり、動画を撮影していると、どんどんエスカレートして過激な行動をしてしまった。おそらく、すごく目を惹く動画が出来上がった!と、思ったことだろう。投稿してみると、アクセス数は(動画を見た人の数)どんどん増えていき、話題にもなった。この動画の内容が、いじめ行為でなければ問題はなかつたのだが、暴力行為が撮影されていたため、視聴者の通報から警察沙汰となってしまった。視聴者は、登場人物を「被害者」と「加害者」に分けてしま

うことにすることを意識しておいて欲しい。

この子らのように、誰でも加害者になってしまいう状況が、スマートフォンの普及で増えてきた。

日常の出来事を「つぶやき」、それを「共有」するサービスが、SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)だ。今ではスマートフォンの機能の一つとして標準装備されている。友だちと情報を共有することで、仲間意識も出来、ミニケーションが取れないと感じる楽しい機能なのだが、その投稿する内容をしっかりと意識していなければ大きな落とし穴に落ちることになる。今、投稿が影響した「人権トラブル」は急増している。SNSを自肃するよう指導している大学もある。書き込みを禁止している企業もある。IT企業の中にも禁止しているところがある。ママ友の連絡手段にSNSを利用するなどを禁止した学校も話題になった。なぜ、自肃や禁止なのか。それは、加害者として検挙されている。子どもは検挙されたが、投稿を受け付けたサイト側は多くのアクセスで、利益を上げている。

インターネットの無料サイトの多くは「無料」だが、多くの人がアクセスしてくれるところで、利益が出る仕組みなのだ。お金のために無料を唱っているサイトに安易な気持ちで投稿すると、大きなリスクを負うことになることを意識しておいて欲しい。

※注 「ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)・会員交流サイト」
「人同士のつながり」を電子化するサービス。自己情報のコントロールや人との出会いといった目的を掲げ、各社がサービスを行っていいる。「ミニミニティー」を通じた「友達の輪」のネットワーク型組織。Mixi、Facebook、Lineなど。(兵庫県『平成24年度くらしの通信講座』用語解説より)

ければ、人権問題へと発展してしまう。

実はネットに投稿すると、バックアップなどのため、データは複数コピー保存されている。書き込んだ内容が不適切で本人が削除したとしても、どこからか再度現れることもあります。ネットの投稿は「消えない」ということだ。ここを意識して欲しい。「一度ネットに投稿した画像やコメントは、消えない!消せない!」のだ。何年間も残ってしまうところに投稿する勇気がないとIT系の技術者は言う。落書きもネットに書くと大事になることを意識して、インターネットを利用してほしい。

何よりも相手に会って、顔を見て話すことがミニミニーション能力を養う。きつちりと会話出来る能力を身につけなければ、ネットの書き込みは誤解を生じ、誹謗中傷、プライバシーの侵害、守秘義務違反に誰でもなってしまうのだ。

一受けつごう確かな実践・明るい職場づくり

加東市企業人権教育協議会の活動状況

私たち企人協は、人権が尊重される明るいまちづくりの一翼を担つて、人権啓発事業の実施や研修を積み重ねてまいりました。

職場（企業）においては、企業成果の向上に欠かせない心の通い合う人間関係づくり、職場でのいじめ、セクハラ、パワハラ防止に力点を置いた研修を積み上げてきましたところです。

お互いの人権を尊重するための研修は、企業の社会的責任を果たす上で欠かすことのできないものです。

私たち『企人協』に参加する市内の商店・企業は、

■本年度の取り組み

第一回研修会（5月実施）

ビデオ視聴

「心のケアと人権」

—職場編—

社ブロック（45社）
滝野ブロック（27社）
東条ブロック（27社）
の計99社に及び、企業規模（従業員数）に応じて年会費を納入して自主的な事業展開をしています。

病を理解することが大事。心の病を正しく理解し、周囲の者が勇気を持つて適切な行動を取ることは、心の健康を守るために大切。

近年、ストレスから健康新た支援物資を持ち帰りバザーで販売し、売上金を現地の発展に役立てるアイデアには感動した。
救援活動から「尊い人性」に感心。「いかに汗をかくか、泥をかぶるか」などいのが「値打ち」だんそんなん人が少なくなるのでは・・・。

心に残つたことは、被災者に本当に必要な物を考えて送る。自立することを忘れ、人に頼るのはいけない。災害があつた所の文化を認め、届けたいのは物ではなく、心である。

自分のエゴができるだけ抑え、悩みを少なくし、思いやりの言葉・言動でもって、プラス思考に気分を転換しストレスをためないようしたい。

■本年度重点目標

- ①企業代表並びに企業内の人権・同和教育担当者等の研修会を開催し、明るく温かい職場づくりをめざす。
- ②人権・同和教育にかかる社員研修を行い、豊かな人権感覚を培い、具体的行動の実践に努めていく。
- ③企業間、企業と企人協事務局との密なる連携を図り、推進体制の確立と研修内容の充実に努める。

第二回研修会（7月実施）

「災害から学ぶ人づくり」

講師 木村 幸一さん



第三回研修会（9月実施）

「考え方、育てよう、思いやりの心」

落語家 笑福亭 扇平さん



第四回研修会（10月実施）

「差別は『差別を受ける人』だけでなく『差別する人』をも『生きづらく』させる」

講師 北谷 錦也さん



◆お誘いとお願ひ

未加入の企業・商店の皆様、ぜひとも、加東市『企人協』に加入ください。

◆加入申込先 人権教育課内企人協事務局

TEL 48-3598

7月7日

子どもの人権と 健全育成を 考える講演会



去る7月7日（土）、東条文化会館（コスミックホール）において、家庭、学校、地域での子どもの健やかで豊かな成長を考える学習の場として、「子どもの人権と健全育成を考える講演会」が開催されました。

講師には、大阪教育大学教職教育研究センター研究協力員「土田光子先生」を招き、「学びでつながる学習集団づくり」という演題でご講演をいただきました。

また、講演会に先立ち、市内小学生3人による人権作文の朗読も行われました。（12、13ページに掲載しています。）

土田さんは、中学校教諭として勤務された豊かな経験から、教室で見せる子どもたちの事実の背景には、一人ひとりの生活があるという原則を大切に生活丸ごとつながる集団づくりの取り組みについてお話をされました。一部を紹介します。

長年にわたる同和教育の取り組みで変えられたのは教育。子どもを見る目が変わった。ある大阪の小学校の実践では、問題がある子の家庭訪問を通じて、その子が生きづらさ、安心して居られる居場所を求めているのが見えて

人権・同和教育は、自分を好きになる子を育てること。自分を大切に思えるから、相手を大切に思える。義理と人情、生きる力、幸せになる力を育てる。

原点は自分を見つめること。同

人権学習は、知識を入れるだけでは意味がない。それを自分のものとする、自分がまるまで受け入れ、身につけること。教育とは、今日行くこと。

会場のみなさんは、講師の熱気あふれる教えと学びに納得顔で傾聴しておられました。

◆ 土田先生のお話がわかりやすく、教員が外見や成績で決めつけたり、差別的な目で人間を見てきた姿を突き付けられて、同時に自分で変革と取り組みが積み重なったのが、長年にわたる同和教育の実践の中身。

りした声で素直な気持ちが伝わる内容でとても心を打ちました。土田先生のお話はとてもわかりやすく表面上ではなく人と人のつながりは、少しづつ相手の事をわかっていて、甘やかすことではなく、思っていることだつたり、お節介な人を育てる等、納得することばかりでした。



全国一斉

女性の人権 ホットライン強化週間

11月12日(月)～18日(日)

～受付時間～

11月12日(月)～16日(金)8:30～19:00
11月17日(土)・18日(日)10:00～17:00

TEL 0570-070-810

(相談は無料です。秘密は守ります。)

—法務局職員又は人権擁護委員が相談に応じます。—

ご来場いただいた
皆さんのお声

「人権文化をすすめる市民運動」

ポスター・標語の優秀賞・入賞作品

市内の児童生徒の皆さんを対象に、「人権文化をすすめる市民運動」ポスター・標語の募集を行い、ポスター96点、標語144点の応募があり、選考の結果、以下の優秀賞・入賞作品が選ばれました。

8月8日～29日までやしろショッピングパークBio多目的ホールで人権啓発展を行いました。

優秀賞受賞10名の皆さんには、8月8日人権啓発展会場にて表彰状と記念品を授与しました。

[標語の部]

[優秀賞]			
ありがとう	言える人に 言われる人に なりたいな	米田 小学校 6年	西山 太一
かけ口は	言わない 聞かない 広めない	滝野東 小学校 6年	吉村 謙子
やさしさと笑顔は	心のビタミンざい	滝野南 小学校 6年	常峰 佑斗
あいさつで	つながる仲間 広がる笑顔	東条東 小学校 6年	岸 本希
嬉しいな	あなたの気づかい あの子の笑顔	東条中学校 2年	肥成 美想
温かい	あなたの一言 宝物	社 小学校 6年	稻川 次輔
加東市の	みんなの笑顔は たからもの	福田 小学校 6年	三草 仁
みんなの	いいとこ 見つけよう	鴨川 小学校 4年	山口 勇名
いじめなし	みんな仲よく いい笑顔	鴨川 小学校 4年	坂口 隼平
やさしさが	いっぱいあふれる いい学校	大畠 陽奈	大西 舞
たくさんの	え顔があれば うれしいな	足立 陸	畠中 真希
その言葉	ホントに誰も 傷つかない?	橋本 希音	森 昇
「しらんぶり」	それもいじめの第一歩	河内 遥	河内 真季
その言葉	ほんとにいいの 考えて	田中 周	田中 真季
やめようよ	見て見ぬふりで 済ますのは	橋本 真季	橋本 真季
さあやこう	ぼくらの力で 明るい未来へ	河内 真季	河内 真季
差し出して	命をつなげる 希望の手	田中 真季	田中 真季
考えて	あなたの言葉 大丈夫?	中村 真季	中村 真季
比べない	あなたは あなたによさがある	希野 真季	希野 真季
その言葉	君がイヤなら みんなイヤ	奈良 真季	奈良 真季



◆人権啓発番組◆

「この町が好き♪じんけんぽん」

放送日 毎月第4木曜日から日曜日まで
(KCVワイドニュースの中)

内容 法務局からのお知らせや人権啓発活動の紹介、講演会のお知らせなど。ぜひ、ご覧ください。



【ポスターの部】

【優秀賞】



鴨川小学校6年 西川 香織



滝野東小学校5年 松本 咲季



社中学校3年 石古 彩乃



滝野中学校2年 三村 祐紀

【入賞】



社小学校4年 清 二葉



社小学校4年 三木 悠雅



福田小学校5年 土井聰一郎



三草小学校5年 白井 大貴



米田小学校2年 大西 一平



滝野南小学校5年 隅山 日菜



滝野東小学校5年 古井 れな



東条東小学校3年 鷹尾 鳩大



東条東小学校3年 藤原 善哉



東条西小学校4年 岸本 理央



滝野南小学校5年 山田 祥子



東条西小学校4年 山本 萌日



社中学校3年 阪脇 悠里



社中学校3年 内藤 真帆



東条中学校2年 出井 七海

軽度・重度・心身障がい者の人が入所して暮らしているそうです。自分で歩ける人もいれば車いすをおしてもらっている人もいたり、寝たきりの人もいたり、いろいろな障がいをもっている人がいるそうです。

母は「療育」といってその人たちが持っている能力を最大限に伸ばし、たくさん笑ってもらえるようにする仕事をしているそうです。

母は笑わすって言うけれど、本当に笑うのか、どうやって障がいを持った人が笑うのか。ぼくは、疑問に思いました。

そんなある日、母が面白いものを見せてくれました。それは、父の肌色のパッチを上下に来て、パッチの中にたくさんのクッションやタオルを入れて体を太くし、まわしをしめ、おさむらいのかつらをかぶり、ひげまでつけて面白いかっこうをしている母の写真でした。

ぼくは今まで見たことのない母の姿に、大笑いしてしまいました。そして、その写真の続きを見ていくと、ぼくと同じように大きな口をあけて笑っている病院の人たちが写っていました。

楽しいと思って笑ったり、悲しいと思って泣いたりするのは、障がいを持っている人も、ぼくも、みんな同じなんだなあと、その写真を見て分かりました。

「笑うことはパワーの源。生きていく力になる。」と母は言います。ぼくも人を笑わせることが大好きです。みんなの笑顔が見れるからです。今度、あの男の人に出会ったら、ちゃんと笑顔でいさつをし、楽しいおしゃべりをして笑わせてあげたいです。



『わたしは生かされて 生きている』

東条西小学校
6年 岸本 菜々夏

わたしにとって、家族とは、わたしの命と同じぐらい大切な存在だと思います。わたし

の命は、お父さん、お母さんからいただいたとても大切な命です。その命は、祖父母から受け継いだ命です。命のつながりによって、わたしは生まれました。わたしは、たった一つのかけがえのない存在なのだと思います。

わたしは、一人っ子なので、さみしいときがあります。でも、家族みんなの愛情は自分に向かっていて、幸せだと感じています。家族のみんなでわたしを育てくれたから、今、生きていられるのだと思っています。

わたしは、こうして、家族の支えを受けて、たくさんの方とかかわって生きています。例えば、いとこや友達がそれにあたります。

わたしには、年齢が近いいとこがいます。大阪や高知などにいるため、一年に数回しか会うことができません。会うと、久しぶりに会ったとは思えないぐらい仲がいいです。会うたびに仲良くなっています。姉妹のような気がします。わたしにとって大切な存在です。

そして、わたしには、大切な友達がたくさんいます。いっしょにいるだけで元気がでたり、楽しい気持ちになったりします。勉強がわからないとき、そばに来て教えてくれます。そして落ち込んだときには、励ましてくれます。ずっと支え合っていきたいと思っています。

かかわりがあるのは、この人たちだけではありません。これまでお世話になった先生や地域の方ともかかわりがあります。この人権作文を書いて、わたしはたくさんの方に支えられ、生きていることに気づくことができました。そして、家族や友達の大切さを改めて実感しました。

しかし、たくさんの人とかかわっていく中で、その人のいやだと思うところや許せないと思うところがあるときがあります。それは心のせまい自分だからそのように感じるのだと思います。そういう自分も受け入れながら、そして、かかわりのある人を大切に思いながら、わたしが望む道へ歩んでいきたいと思います。人との出会いを大切に、これから進む人生の困難を乗り越えていきたいと思います。

※この作文は7月7日に開催した「子どもの人権と健全育成を考える講演会」で発表されました。



『まほうの言葉』

鴨川小学校
6年 大畠 喜紀

ぼくは、言葉はだれにでも使える「まほう」だと思っています。一言で相手を傷つけたり、逆にうれしくなったりするからです。

ぼくは一度、友達にひどいことを言われたことがあります。サッカーをしていて、「何、しょんねん。」

ときつく言われました。その時に、ぼくって、サッカーの才能がないんやなと思ってしゅんとなっていました。その他にも、友達と口げんかをして、「最低。」「どっかいって。」

と悲しいことを言わされたこともあります。それ以来、ぼくはその友達がきらいになりました。そしてその友達と出会うと、その時の思い出したくないことを思い出してしまいます。

逆に一言言って、うれしくなったこともあります。ぼくたちの学校では二ワトリ当番があります。低学年の子の当番の時に、大変そうだと思ったので、ぼくが手伝ってあげようか、とやさしく言うと、「ありがとう。」

と笑顔で返してくれました。そして、とても心がすっきりとしたような感じがしました。

このような体験をしたことがあったので、言葉は「まほう」だと思います。

今、ぼくが相手のことを考えてしていることが二つあります。

一つ目は、相手に、「ごめんね」や「ありがとうございます」をすぐに言うことです。けんかになるのは簡単だけど、仲直りするのはとても難しいと思います。それは仲直りするには、とても勇気がいると思うからです。だから、難しくて言いにくい言葉をすぐに言おうと思っています。お礼の言葉も、それと少し似ています。「ありがとうございます」もちょっとはずかしくて言いにくいので、意識してなるべくすぐに言うようにしています。

二つ目は、相手の顔の表情を見ながら話すということです。ぼくは、ときどき相手に対してよくないことを言っているときがあると思います。なぜそう思うのかというと、相手の心を知ることは難しいからです。気がつかないうちに相手を傷つけてしまっているかもしれませんのです。でも、相手の表情を見れば、悲しい、うれしい、楽しいというような気持ちをある程度知ることができます。だから、それをたよりに、相手のことを考えながら、話そうと思っています。

この二つのことを心がけることは、他の人にも気をつけてもらえたなら、みんなの笑顔が増え、楽しい気持ちも増えるのではないかと思います。そして、友達になる子が多くなると思います。

ぼくは、みんなにたよりにしてもらえる人になりたいので、「まほう」の言葉もやさしく言える人になりたいです。そして、友達をもっともっとたくさんつくりたいなと思っています。



『みんな笑う』

滝野南小学校
6年 島田 日汰

ぼくが五年生になってすぐのことです。母と買い物に行った時、車いすに乗っている人の人に出会いました。

その人は、母の仕事先の病院に通っている人でした。母は普通に「こんにちは。」

とあいさつして、笑ってしゃべっていました。けれど、その人は、自分とはちょっとちがっていて顔がゆがんでいたり、手足に力が入ったようにかちこちに曲がっていたり、さけんで声をだしているみたいに見えました。ぼくはびっくりして、どうしたらいいかわからなくなって、あいさつができませんでした。母の働いていた病院には四つの病棟があり、

人権トピックス



12月4日から10日までの1週間は人権週間です

～生きがいと幸せを築きあう人間尊重のまちに～

加東市は、すべての住民がお互いの人権を尊重し合い、同和問題をはじめ、あらゆる差別のない「生きがいと幸せを築きあう人間尊重のまち」の実現を目指しています。

多彩な催しを通じ、参加者の相互交流を図り、人権尊重に根ざしたものを見方や考え方を身につけ実践していきましょう。

人権と福祉のまちづくり フェスティバル

- ・ 日時 平成24年12月8日(土)
午後2時から
- ・ 場所 滝野文化会館
- ・ 講演 演題
「ダンスで心のバリアフリーを!」
講師 プロ車椅子ダンサー
奈佐 誠司さん



人権啓発展

- ・ 日時 平成24年12月4日(火)午後から
12月19日(水)午前まで
- ・ 場所 やしろショッピングパークBio
2階多目的ホール
- ・ 内容 市内保育園児による人権をテーマにした共同作品の展示

特設人権相談所を開設します

人権問題でお困りの方は、お気軽にご相談ください。秘密は厳守されます。

- ・ 相談日 平成24年12月4日(火)
13:30～15:30
- ・ 場 所 社会福祉センター
2階相談室

街頭啓発活動

人権週間の期間に人権擁護委員が実施します。

- ・ 日時 平成24年12月4日(火)16:00～
- ・ 場所 やしろショッピングパークBio
(西側入口)

特設総合相談所を開設します

人権や生活の相談をお受けします。お気軽にご相談ください。秘密は厳守されます。

- ・ 相談日 平成24年11月6日(火)
10:00～12:00 森尾集会所
13:00～15:00 敷公民館

人権を考える市民のつどい

- ・ 日時 平成25年2月9日(土)
午後1時30分から
- ・ 場所 滝野文化会館
- ・ 内容 ★人権弁論
中学生による発表
★住民学習実践報告

編集後記

このたび「わがまちに生きる」と題して、様々な分野で活躍している方に生き方について語っていただくコーナーを作りました。第1回は、ヒロシマ原爆被爆体験談を語ってこられた河井克夫さん。間近で話を聞いて、原爆の被害がどれだけ悲惨なものか、胸に迫るものがありました。そこから平和への思いが伝わってきます。これから、いろんな方にお話を聞かせていただき、みなさんの思いを伝えていきたいと思います。